

茨城 建築文化賞

第39回

県建築士事務所協会(河野正博会長)は22日、第39回茨城建築文化賞の表彰式を同協会の総会にて挙げる。この賞は、地域の周辺環境に調和し、かつ景観上および機能的に優れている県内の建築物を表彰するもの。文化の香り高い魅力あるまちづくりに対する意識高揚のため、毎年開催している。今回は2025年4月1日から26年3月31日までに竣工した建築物31点の応募があった。これらを学識経験者や県土木部幹部職員、関係団体などで構成する茨城県建築文化賞審査委員会が厳正に審査し、12作品が受賞の栄に浴する。

受賞作品および受賞者は次のとおり。

◆【知事賞】
霞ヶ浦どうぶつとみんなのいえ 高橋一平建築事務所

◆【議会議長賞】
こどもの運動発達のための保育園ふぁみりは学園 ㈱ツバメアーキテクツ一級建築士事務所

◆【土木部長賞】
ちらんつくば園 ㈱ヤマト建築設計事務所

◆【深城新聞社賞】
桜川消防署庁舎 ㈱andh A N D建築設計事務所

◆【住宅部門最優秀賞】
つくばみらい市の住宅 ㈱濱田慎太建築事務所

◆【住宅部門優秀賞】
つくばの平屋 ㈱サンハウス一級建築士事務所

◆【入選】
筑西市認定こども園せきじょう整備事業(プロポーザル) ㈱若柳建築事務所

◆【入選】
みどりの会所アスロメディカル新社屋 ㈱T O A S T

◆【入選】
笠間工芸の丘カフェ 大山都市建築設計

◆【入選】
フロイデケアタウンひたちなか ㈱五井建築研究所

◆【入選】
鹿島神宮礼拝館 ㈱同かたちつくり研究所



【知事賞】 霞ヶ浦どうぶつとみんなのいえ

高橋一平建築事務所

設計主旨 環境としての建築
「霞ヶ浦どうぶつとみんなのいえ」は、東京から2時間ほどの平野に広がる霞ヶ浦の畔に新たな公共の場として建つ。茨城県行方市とのPFI事業で、旧科学館と湖畔エリアの再生整備プロポーザルを経て始まった。協働の事業者は地元で畜産と観光牧場を元々営んでいた。私たちは企画から携わりこの場所を動物とふれあう場所へ変えることとなった。
地球は今や新世と言われるほど人工物で溢れた。ここでの試みは、かつて人間が築いた世界(旧科学館)を解体し、光、風、雨、緑といった自然を導入させ、そこへ動物たちが乗り込み、人工物が自然へ還元されていく事実を人間が目の当たりにする場所をつくることである。また人間と自然との関係において、近代はその合理的な所作により両者をかき立てて遠ざけたが、ここでは限り

く近づけようとしている。新築や解体、改修、事業者によるセルフビルドといったあらゆる建築行為を組み合わせて、近代まで続いた人間中心による「空間」の構築ではなく、両者が主体となる「環境」を構築していく。それは新たな建築概念となるだろう。外周側から巻きつく新築のコンクリート製周遊テラスは、人間が統制できない自然と同じように、人間社会に対し外的に存在する「四人称」の視点を携え、既成の秩序や対立概念を交えていく。その視点を歩くことにより、旧建物や霞ヶ浦、空や大地や緑などの自然が、ひとつの新しい環境として結びつく。ここでの経験を通して、人間が自然の尊厳、すなわち自然や動物は人間の外的存在なのであって私たちはそれらと同じ時空を生きているという事実を肌で感じ、人間に本来備わる持ち前の感性と思考を取り戻せるよう願う。この場所は、その思考を未来へ届けるための遺跡となる。



【土木部長賞】
ちらんつくば園

㈱ヤマト建築設計事務所

設計主旨 「自らの力で考えて課題や困難を乗り越えていく、生きる力を備えた子どもたちを育てる保育園にしたい。」施主である保育園の方々の意見交換の中で浮かび上がった想いでした。その想いを建築として形にするにあたり、1) 子どもたちが自然の中で五感を働かせて遊ぶことができる、2) 主体的かつ想像力を働かせて生活することができる、3) その上で保護者や職員にとっても機能的で使い勝手が良い園舎、をテーマに設計しました。

上記テーマの具現化の一つが奥行4.5mの大庇を持つテラスです。起伏に富み、樹木を植えたデコボコ園庭と園舎との間を明確に分けるのではなく、半屋外空間として大庇テラスを配置しました。大庇テラスに出ることでデコボコ園庭に出て駆け回る衝動を誘い、子どもたちのたくましい心身の成長を促します。また、直接園庭に出て遊ぶだけでなく半屋外空間で遊ぶことで虫や野鳥の声、天気や季節の移り変わりを感じることも可能です。テラスと園庭との境界を感じさせないために柱は設けず、大庇が屋根根から張り出す設計にしました。夏場の水浴時には、大庇先端の給水管からプールに吐水を行い、変化にとんだプール遊びができる仕掛けと共に給水の昇温効果も期待できます。この大庇テラスは雨天時に保護者が子どもを送迎する時には雨よけとしても有効に機能します。同様に駐車場側の園舎にも大屋根を配して、雨天時の送迎場を円滑にしています。



【議会議長賞】

こどもの運動発達のための保育園 ふぁみりは学園

㈱ツバメアーキテクツ一級建築士事務所
(施工者・柴木材店)

設計主旨 診療所に隣接する、同一事業者によるインクルーシブ保育を目指す保育園である。心身の障害の有無にかかわらず、すべての子どもが共に過ごす保育を実現するため、事業者との対話を重ねる中で「障害に配慮して空間を規定する」のではなく、「多様な空間の中から主体的に環境を選択できること」を設計の軸とした。周囲の田園風景と既存診療所に馴染むスケールとするため、平屋二棟を雁行配置し、分節されたボリュームを軒先で緩やかにつなぐ構成としている。天井高や構造形式の異なる内部空間に、大小二つの庭、軒下やデッキによる半外部の中間領域を重ね合わせ、感情や身体特性に応じた多様な居場所を設けた。調理室をエントランス脇に置き、調理の気配が外域ににじみ出る構成にも寄与している。周辺の雑木林を借景として取り込み、敷地を超えて回遊性を内包する、のびやかな保育の場を目指した。

撮影：中村 絵



【住宅部門優秀賞】

街にひらかれたコートハウス

(有)宮本建築アトリエ

設計主旨 敷地は倍楽園に近く、住宅等が建ち並ぶ幅員2.7mの閉塞感と圧迫感を感じる一方通行の公道に接している。

開口約20m、奥行き約17mの恵まれた敷地形状を考慮し、街の通りに開放感とゆとりを与え、かつ爽やかな印象を与える空間構成を日ざした。

街・通りに面して開口約14m、奥行き約3.5mのオープンコートを計画し、さらに住宅との間には連絡格子を設け、アウトドアリビング・バルコニーといった外部と内部の中間に位置する遠くで繋がる空間・コートを設けた。

車庫と連絡格子の切れ目にコンクリート壁を突き出して、アプローチをかたち作り、アウトドアリビングを左手に眺めながらエントランスへと導き、広い玄関ホールを経てその先の玄関コートへと広く連続しつつなまる空間はこの住宅の主空間であり、建築主の住宅に対する考えを色濃く反映した空間です。又この空間動線の流れが住宅を明確にパブリックゾーンとプライベートゾーンに分離しています。



【茨城新聞社賞】

桜川消防署庁舎

(株)andHAND建築設計事務所

撮影：堀内広治

設計主旨 筑波の山並みへと視線が通じるシンボリックで軽やかなリズムを刻む折板状の屋根は、この建築の象徴です。街と署の境界をあえて曖昧に設定することで、消防活動が都市の日常へと溶け込み、市民が消防署に親しみを感じられる「開かれた透明性」を構築しています。内部空間では、ガラス越しに活動の気配が伝わり「見る・見られる」の関係性をデザイン。消防署の日常が可視化されることで、消防署を「遠い存在」から「地域コミュニティの拠り所」へと変容させています。

また既存杭と新設杭の干渉を精緻に回避した配置計画は、PCPaC工法(一部S造)を採用。建物強度、工期短縮、大スパンの無柱空間を実現することで、消防拠点に不可欠な機能性と将来的な可変性を確保。これは資産価値の維持と長寿命化、ひいては環境負荷の低減という、公共建築が担うべき経済的・倫理的責任に対する「建築」としての回答でもあると考えます。

設計主旨 笠間工芸の丘は平成10年の開設以来24年が経過し、センタープラザ、ふれあい工房、創作研修館を中心に老朽化が進行していた。設備面でも省エネルギー化やユニバーサルデザインへの対応が十分でなく、時代の要請に応える改修・増築が求められた。

笠間焼を核に発展してきた本施設には、展示販売や陶芸体験、陶楽祭などを通じ多くの来訪者が訪れている。今後は地域資源のさらなる発信と若い世代の育成・交流を促し、環境配慮と快適性を備えた持続可能な拠点が求められていた。

本工事では外部・設備の改修、LED照明化や空調熱源の電化により省エネ化を図り、内部改修と合わせ新設ギャラリーを整備した。増築したカフェは県産材を活用した木質空間とし、笠間焼等を積極的に用いた。

本改修・増築により、笠間焼の新たな魅力を発信し、地域と来訪者が交わる交流拠点へと再生させ、市民にとっての「庭」や「食卓」となる場を創出し、未来へ持続する工芸文化の発信基地を目指した。



【入選】

笠間工芸の丘カフェ

大山都市建築設計

設計主旨 この施設は、0歳から6歳までのこども達の施設である。多感で感受性豊かな大事な時期に何を体験して育つかということテーマにデザインした。地域と共に学び受け継いでいける仕掛けとして地域名産の果樹体験ができるよう庭を配置し、農園的空間で地域のひととの触れ合いが生まれる工夫をした。物事の仕組みに疑問をもつ目を育てるためにルーバー天井を採用し設備の見える化を実施。園児が見上げると機械設備の仕組みを垣間見ることができ、「あれなに？」の心に配慮した。0、1、2才児の空調は、全空気床放射冷暖房システム「ユカリラ」とし床下からの放射熱で快適な室内環境を確保。室内の吸音性を高めてこども達の声の反響を抑えている。内装は、木質化を計っているが鉄やコンクリートの素材も無垢で使用し素材感を重視した仕上がり。食育のための厨房の見える化や、安全な保育のため保育士のスムーズな動線など協議を重ねてつくり上げた施設である。



【入選】

筑西市認定こども園せきじょう整備事業(プロポーザル)

(株)若柳建築事務所



【リフォーム賞】

鹿島神宮礼賓館

(同)かたちづくり研究所

設計主旨 この地に創建されて2685年という国内屈指の歴史ある鹿島神宮にあります。昭和47年6月に竣工し、結婚式場や皇室、勅使の接遇、賢き地の指図の身を清める場として建設された特別な施設です。昭和天皇陛下をお迎えする役割も果たして参りました。しかし、50年を経た近代建築は、老朽化が進み、本来の機能が発揮出来ない建物となりました。北側斜面に神宮の森を抱えた立地から建替も困難という条件を前向きに捉え、隣接で修繕が進む機軸などの文化財と同様、現代にふさわしい鹿島神宮の近代建築修繕プロジェクトとして実現しました。

予算内で何をどう修繕するかを神職と話し合い、日常の使い易さもデザインに反映しました。修繕ポイントは、次の時代へ継ぐ構造躯体・断熱であり、上下足の段差解消、一部に鹿島神宮の鋼木廃材を再利用した家具も取り入れ、来賓を迎える品質にも応えました。

令和の礼賓館として生まれ変わった施設へ、時代の要人を迎えて頂きます。



【入選】

フロイデケアタウンひたちなか

(株)五井建築研究所

設計主旨 1万㎡の傾斜地に整備する、子どもから高齢者、障がいのある方まで多様な人々が関わる地域包括ケアの拠点である。法人代表がドイツ留学で体験した広場中心のまちづくりに着想し、病院単体ではなく施設群が連携する「ケアタウン」を構想。病院を「治す場」から健康を育む「健院」へと拡張し、日常的な関わりを生み出すことで健康寿命の延伸と地域共生を目指す。5mの敷地高低差を活かし、建物を段状に分棟配置し周辺環境に配慮しつつ、隙間や視線の抜けにより光や風、地域の人々をやわらかく敷地内へ導く開放性を生み出している。広場「フロイデコート」を中心に各種を緩やかにつなぎ、リビングやテラスを広場に面して配置することで、室内にいながらも広場のにぎわいや季節の移ろいを感じられる計画としている。さらに地域の年中行事とともに楽しむ「地域の広場」として機能させることで、単なる施設群ではなく、「通う・働く・遊ぶ・暮らす」が重なり合う地域一体のまちづくりを目指している。

<p>andHAND®</p> <p>株式会社 andHAND 建築設計事務所 代表取締役 飯島洋省 〒305-0033 茨城県つくば市東新井29-13 TEL 029-855-3055 www.andhand.co.jp</p>	<p>YAMATO</p> <p>株式会社 ヤマト建築設計事務所</p> <p>代表取締役 井坂光宏 〒310-0851 水戸市千波町1370-4 TEL 029-241-3317 FAX 029-241-3361</p>	<p>木とともに、地域に愛される居場所を育む。</p> <p>株式会社 柴木材店</p> <p>代表取締役 柴修一郎 〒304-0031 茨城県下妻市高道組 4316 TEL 0296-43-5395 FAX 0296-44-0376 E-mail shiba@shiba-mokuzai.com</p>	<p>高橋一平建築事務所 TAKAHASHI IPEI OFFICE 神奈川県横浜市西区高島2-5-5 7F OFFICE@TAKAHASHIPEI.COM 7F 2-5-5 Takashima Nishi-ku Yokohama JAPAN WWW.TAKAHASHIPEI.COM</p>
<p>人・まち 未来への創造</p> <p>株式会社 五井建築研究所</p> <p>代表取締役 喜多孝之 〒920-0061 石川県金沢市間原町2丁目1番地 Tel (076)237-8441 FAX (076)238-9094</p>	<p>OOMA 株式会社 大山都市建築設計 Oyama Office for Metropolitan Architecture https://ooma.co.jp</p> <p>〒309-1106 茨城県西海市新治1996-56 TEL 0296-21-7005 FAX 0296-21-7006 OOMA-MIO 水戸設計室 〒310-0041 茨城県水戸市上水戸3-5-15-102 TEL 029-291-4340 FAX 029-291-4341 E-mail: info@ooma.co.jp</p>	<p>WAKAYANAGI ARCHITECTS</p> <p>【株】若柳建築事務所</p> <p>代表取締役 若柳綾子 〒305-0868 茨城県つくば市台町1-8-1 TEL 029-886-8034 FAX 029-886-8035</p>	<p>(有)宮本建築アトリエ</p> <p>代表者・設計者 宮本久 〒310-0851 水戸市千波町2274-18 電話 029-244-7711 F a x 029-244-7712 URL: http://www.miyamoto-a-a.com</p>
<p>ふれあいの住まいづくり街づくり</p> <p>一般社団法人 茨城県建築士事務所協会</p> <p>会長 河野正博 事務局 〒310-0852 水戸市笠原町978-30 建築会館2F TEL 029-305-7771 FAX 029-305-7791</p>		<p>合同会社 かたちづくり研究所</p> <p>代表 斎藤哲仁 〒162-0801 東京都新宿区山吹町361番地 誠志堂ビル3階 TEL 03-6265-0432 Mail info@katachiken.jp</p>	